

ながぬま

賀正



長沼町東1線北8番付近

タンチョウ 長沼町西2線北17番地付近
撮影者：8区山野光知さん
撮影日：平成29年9月18日

厳しい農業情勢に挑戦

「ホクレン中期計画」最後の年、
農業所得向上へたゆまぬ取り組みを



会長理事 内田 和幸

新年あけましておめでとうございます。組合員皆さま方におかれましては、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日々の営農と併せ地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

昨年は雪解けも早く、春先から好天に恵まれ、農作物も順調に生育が進みました。6月と8月上旬には平年を下回る気温が続く時期もありましたが、7月は気温が高く、お盆以降は好天にも恵まれました。昨年の北海道米は作況指

数「103」となり、食味も大変よいものになったことは、生産者の皆さまの大きな励みになったと思います。また、小麦や豆類、てん菜でも平年を超える収量を確保でき、全体としては実り多い秋を迎えたことは生産者や会員JAの皆さまの努力のたまものだと思います。

ホクレンでは、現在推し進めている第12次中期計画で、「販売・購買・営農支援を三位一体とする事業運営」を基本戦略として、価値向上・生産性向上・コスト低減という重要テーマのもと事業に取り組んでおりますが、どの取り組みも、生産者の農業所得を高めていくことに重きを置

いています。安定した収量を確保しつつ、品質の向上で付加価値の高い農畜産物を消費者の皆さまにお届けする、こうした取り組みを通じて生産者の農業所得を高めていくことが、ホクレンが担っている大切な役割です。

ホクレンが果たしていく役割を多くの方々から選ばれる組織となるよう、そして生産者・会員JAの皆さまの負託に応えるよう、全力で事業運営に取り組んでまいりますので、今後ともご理解、ご指導、ご支援をいただければ幸いです。

昨今の北海道農業は、「日欧EPA」や「TPP11」などの国際交渉や、国内農政を巡るさまざまな議論など、取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。しかし、北海道の基幹産業は農業でありますし、国内における食糧基地の機能も果たしています。どのような状況下においても、生産者の皆さまが、この北海道で豊かな農業を継続でき、安全・安心でおいしい農畜産物を供給し続けることができるよう、そして、国内における食の安定供給を果たし、食糧自給率の引き上げにつながるよう、ホクレンとしての役割をしっかりと果たしていく所存です。

結びに、北海道農業並びに組合員皆さまの1層の発展と本年が天候に恵まれ実り多い豊穡の年になりますよう心からご祈念申しあげ、年頭のごあいさつといたします。

新年ご挨拶



代表理事組合長 成田 正夫

組合員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

輝かしい平成30年の新年をご健勝で迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

また、平素より当農協が行います事業に對しまして、事業推進員さんを通じ特段のご理解、ご支援を賜っておりますことに対してお礼と感謝を申し上げます。

さて、昨年の天候につきましては、積雪も少なく融雪も早まり4月・5月の天候も高温に経過し農作業も順調に行われましたが、6月の低温寡照と降雨により各作物の生育は停滞いたしました。しかしながら、7月上旬の高温により生育は回復したところであります。また、秋には断続的な降雨により、思うような農作業が進

まなかったところでもあります。

昨年度の作柄については、水稻の作況指数「南空知105」（北海道103）で米の館受入計画対比117%となり、低タンパク米も過去最高の75%と量・質共に最高の年となりました。特に「ゆめびりか」については、基準品タンパク7.4%以下が全量に近い結果となり、第3回空知地区ゆめびりかコンテストでグランプリを獲得出来たことは、誠に栄誉なことであり生産者皆さまのご努力に敬意を表するところであります。

小麦については、施設受入計画対比102%となり、平年並みでやや細麦傾向ではありましたが品質がよい状況となりました。大豆も施設受入計画対比102%で品質もよく2等品位で

65%の集荷となりました。野菜については、トマトの販売見込額が6億2千万円、プロッコリーの販売見込額が5億7千万円と大きく販売額が増加し出荷先での評価も高い状況であります。総体として生産者の営農技術とご苦労が実を結んだものと敬意を表する次第であります。

一方、農協事業については、平成26年度より生産施設集約化に向けた施設整備事業を進めており、組合員の農産物貯蔵保管に大きく寄与する施設として昨年5月に低温農業倉庫が完成し小麦・大豆の受入から活用し、受入・保管管理体制が大きく改善されることとなりました。

また、この事業の取り進めにあたり組合員皆さま方のご理解を賜りましたことに対して、改めてお礼を申し上げます。

さて、近年の農業や農協を取り巻く環境は大きく変化しています。地域では農業者の高齢化、担い手の減少など構造的な課題を抱える一方で、米国の離脱もあつた「TPP11」、「日EU・EPA交渉」の大筋合意がなされるなど、国内農業にとつては市場開放を厳しく迫られる懸念が引き続きしており、また、規制改革による各種制度の見直しも迫られています。

平成28年4月には農協の事業運営原則などを改めた改正農協法が施行されました。改正農協法では、「農業者の所得増大に努める」、「理事の構成について認定農業者を過半数とする」と「公認会計士監査の導入」など、それら

んでいくJAグループ北海道を目指してまいります。

関係各位の特段なるご理解とご協力の程、よろしく願い申し上げます。

結びになりますが、今年の干支は戊戌（つちのえいぬ）です。

一説には、戊は「茂」に通じる意味があり、「植物の成長が絶頂期にある状態」を表しているとのことでもあります。

今年は、この成年にあやかり、天候に恵まれ実り多い豊穡の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げます、新年にあたってのご挨拶といたします。

新年のご挨拶



空知農業改良普及センター
空知南西部支所
支所長 宗像 政美

新年明けましておめでとうございます。希望に満ちた平成30年の新春をご家族とともに迎えられることを心からお慶び申し上げます。

昨年は雪解けが平年より6日早く、春作業は順調なスタートとなりました。その後、4〜5月で一時降雨による移植作業の停滞場面も見られました。6月は一転し、低温・寡照で水稲の初期生育はやや不良となり、大豆の生育停滞・湿害の発生が見られました。

7月の高温・多照により水稲は冷害危険期・開花期を順調に経過して、稲穀が大きく形成され、不稔も大幅に少なくなりました。開花・受精後の低温は、登熟日数を要しましたが、じっくり登熟したことで千粒重が重く、収量は平年を大きく上回った要因と思えます。

特に、南空知地域の作況指数は「105」と全道的に高指数となり、低タンパク米も過去最高の出荷と聞いています。さらに、食味についても「空知管内ゆめぴりかコンテスト」で、ながめ産産産ランプリ・南幌産産産ランプリと南空知地域のお米が量・質ともに高い評価を受けました。

他の作物についても大きな災害が無かったものの、気温の上下変化・断続的降雨と気象変動の激しい年となりました。このように極端な気象が続く厳しい条件下にあっても、畑作物などはほぼ平年並を確保、野菜のトマト・ブロッコリーは共に過去最高の販売額に到達出来たことは、ご家族や地域が力を合わせ、弛まぬ努力と

今こそJA!

その意義と役割

近年、JAグループを巡る報道が多数ある中で、改めて協同組合やJAとはどういうものなのかを再認識するために「今こそJA!」の意義と役割を連載いたします。

第4回 JAの販売事業

「委託販売」と「買取販売」

最近、国の規制改革会議が1年以内にJAの委託販売を廃止し、全量を買取販売に転換すべきとの提言を行ったとのニュースが報じられました。今回は組合員にとってかわりの深いJAの販売事業について考えてみましょう。

JAの販売事業は、組合員がJAに自ら生産した農産物の販売を委託する「委託販売」の形



が主力になっています。JAは委託された農産物を販売し、手数料を差し引いた代金を組合員に渡します。委託販売は同じ種類の農産

物をJAの地域全体から集めることで規模の経済性が発揮され、さらに品目によっては需給調整や付加価値の向上のため、農産物を一定期間貯蔵したり、加工するなどして市場や量販店に対して価格交渉を有利に進めることができます。こうして全道段階で結集したものがホクレン、さらに全国段階につながっていくと全農という形になり、次第に販売力は強化されていくのです。

こうした委託販売は米や生乳など全道規模で大量に取り扱う農産物に向いていますが、販売価格の確定までに時間がかかり、年度をまたぐこともあるといったデメリットがあります。このため、組合員からは農産物を出荷した時点で代金が支払われる「買取販売」を求める声もあります。買取販売は肉や小豆など一部の作物で行われていますが、農産物の買取にはその時々々の価格差といったリスクの回避が重要であり、大量の買取は資金調達などの面からも難しいのが現実です。農産物の特性を考慮しつつ委託販売と買取販売を組み合わせながら有利な販売を展開していく、これがJAの販売事業のあるべき姿ではないでしょうか。

長年にわたる土づくりなどへの取組みや、高い生産技術があつてこそその結果だと敬意を表します。

農業を取り巻く環境は大きな変革の時を迎え、TPPは発効の見通しが不透明で米国抜きのTPP11・EPAの合意や日米FTAの交渉入りの可能性が今後考えられます。国内外の農業に与える影響が懸念される中、農業経営の安定化や攻めの農業への取組みに関連した政策大綱がまとめられています。

将来の見通しが不透明であり、また極端な気象が今後も続くと思われませんが、どのような状況下でも「地域の豊かな大地を守る」ことを基本として、各組織の力を活かした効率的な農畜産物の生産を目指すことが大切と思われます。

普及センターとしても、基幹作物の栽培管理を基本に各種試験や現地実証を行い、品質向上や効率的な生産に向けた普及活動を関係機関と連携しながら推進しております。

職員一同、今年も基幹作物の安定生産を第一に支援を行い、地域の農業振興に少しでも力添え出来ればと考えております。

皆様にとって輝かしく豊かな年となると共に、皆様のご多幸と益々のご発展をご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



地域農業を担う 熱き青年たちとともに!

- ✓タイムリーな農業情勢・農業政策をわかりやすく!
- ✓活動事例やリーダーのレポートで、JA青年組織の活動の活性化をバックアップ
- ✓生産・販売の参考となる流通や消費のトレンドをレポート
- ✓今までもこれからも地域農業の担い手の味方!!

年2回は別冊付録付き

定価(税込)
●普通月号 606円
●付録月号(4・11月号) 668円

食と農のウェブマガジン「pikkarri(ピッカリ)」で、「若きリーダーの背中」のバックナンバーを掲載しています。また、読者と編集部が交流するフェイスブックも開設しています。



お申し込み先 営農経済部 営農企画課 TEL88-2232



女性部秋季研修旅行

11月19日～21日、東北方面へ新幹線で行く秋季研修旅行を実施し、11名が参加しました。初めて北海道新幹線に乗り仙台駅まで行きました。到着後は、日本三景の松島湾を船で遊覧しました。翌日は国宝瑞巖寺を参拝、美しい装飾類は伊達正宗の美意識の高さが伺え圧倒される物ばかりでした。その後、山形県へ向かい、途中で休憩を兼ねた女性部恒例道の駅巡りでは、地元の野菜に目が行き、ガイドおすすめの一斗缶入りかりん



とうに心が揺らぎ、名物のずんだ団子を購入しバスではすぐにお茶会になりました。次に鳴子温泉峡にて、名産のこけし人形の絵付け体験をしました。見本の絵を見ながら先生と同じぐらい上手に描くことができました。前日の初雪積もる山道を抜けた午後からは将棋の駒が名産の天童市へ、天童ワイナリーでワインの製造工程や説明を聞き知識を高めてから試飲をさせてもらい、皆さんほろ酔いでワインを購入しました。最終日は早朝から、9世紀に創建され、ブナ材での建築物では日本最古の山寺の立石寺へ向かいました。チラチラと雪降る山の上へ1070段の階段をひたすら登り五大堂では山間の雪景色と紅葉の見事な景色に魅了されました。午後からは宮城県閑上地区で、3・11の震災で被害にあった被災者の方から実際の場所へ行き当時の様子を伺いました。6年過ぎても復興整備されていない現実を目の当たりにしましたが、被災者の方は、



震災の話を語り継ぐことで悲劇を忘れずまた教訓にしてほしいと話され、とても前向きに頑張っている感じがしました。2泊3日でしたが、とても充実した研修となりました。バスを降りるたびにお土産を買い、どんどん重くなるカバンと思いついて無事に帰宅しました。

フレミズ後継者育成対策研修旅行

11月22日～23日、部員19名が参加のもと青森県への研修旅行を実施しました。

フレミズ初の道外旅行も北海道新幹線の旅となりました。新青森駅では超ベテランバスガイドの案内で三内丸山遺跡へ向かいました。遺跡では縄文時代の住居群や倉庫群などが広い敷地に再現されていました。資料館では多くの発掘遺跡を見ることができました。

次に本州最北端の浅虫水族館へ行きました。メインのイルカショーをはじめ、世界の珍しい生物が展示されていました。夕食会は津軽三味線の生演奏が聞けるお店で行い、お料



理も美味しくみんな大満足、突然現れたえびす様とねぶた踊りを掛け声とともに踊り大いに盛りあがりました。翌日は函館へ立ち寄り朝市で買い物や食事を楽しみながら自由な時間を過ごし、列車に乗り帰路につきました。家族の協力もあり、初めての道外研修は大成功でした。

女性部 Aコープ酢料理講習会

12月1日、農協大会議室においてAコープ酢を使った料理講習会を行いました。Aコープ酢製造の大興産業から講師を迎え机上講習とお酢を使った料理を講師の方が簡単につくってくださり試食を



しました。健康ブームには減塩は付き物で塩1gを酢2・4CCで補うことや、酢は殺菌効果もあり野菜や魚など生でいただく時、サツと酢洗いをすることで保ちが良くなり、漬物も酢を入れて減塩効果があるなど酢的

女性部なないろスプーン部会 豆腐を作ってみよう

12月7日、部員15名参加のもと、今回は2月に「豆腐マイスター」資格を取得された部員にお豆腐づくりとおからを使ったデザート作りを習いました。生搾りの豆乳から作る行程ではにがりを入れるタイミングが難しかったものの、しっかりと大豆の甘みがあり食感もよく初めて作りましたが上々の出来でした。絞ったおからは小麦粉や果物を入れてフライパンでタルトを作りました。資格を取った部員も緊張の指導でしたがとても美味しくできました。大豆がもっと家庭料理で使われる良いきっかけとなりました。

女性部ライラック部会 しめ飾りとぼち袋を作ろう

12月15日、部員23名参加のもと、もうすぐお正月というこでしめ飾り作りにチャレンジしました。本来なら菅(すげ)を使いますが、今回は洋風に紙ひもを使って作ってみました。紐をねじって組むのは結構な力が必要で2人がかりで行い、組上げて水引や花などを飾りました。併せて今回はお年玉などに使うぼち袋を折り紙や水引などを使い、手作りにちやレンジをし、楽しいひと時を過ごしました。



女性部 常勤役員と意見交換会

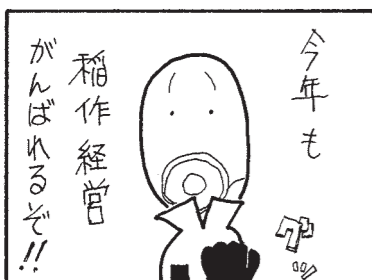
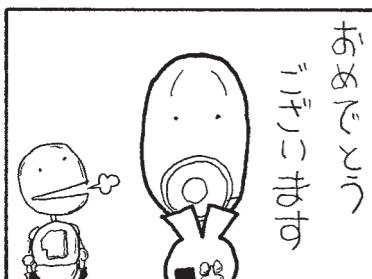
12月13日、女性部の最終理事会にて、常勤役員との意見交換会を行いました。

「農協改革への取り組みについて」の説明のうち、女性部より、女性の視点からのJAや子会社へ向けて意見や要望などが出され、有意義な意見交換会となりました。



(素敵)な情報をたくさんいただきました。運動と合わせて体にいいものを取り入れて健康で過ごしましょう。





健康管理講座 温泉湯治 に参加しましょう!

農協では、組合員とその家族を対象に健康管理講座を下記の要領で実施します。

多数の方が参加されますようご案内申し上げます。



～ 実施要領 ～

1. 対象者	ながめま農協の正組合員・家族であり、町内在住の満60歳以上の方
2. 実施期間	平成30年2月12日(月)～16日(金) (4泊5日)
3. 募集人員	40名程度
4. 研修先	登別温泉ホテル まほろば
5. 研修内容等(予定)	湯治、健康管理についての講演・血圧測定、学生落語、カラオケ等
6. 参加料金	個人負担 35,000円
7. 申込期日	平成30年1月31日(水)まで
8. お申し込み先	農協本所 営農経済部営農企画課 TEL 88-2232 (持病のある方は申込時に報告してください)
9. 参加料金納入	組勘・普通口座より引落しさせていただきます

営農用石油特別価格対策の実施について

燃料センター系統石油事業では、営農コストの低減を図るため、農業用免税軽油と米麦乾燥などの農業用灯油について、特別対策を実施しております。

平成29年度につきましても、取扱実績に対して、次の通り値引き修正をもって、特別価格対策を実施いたしましたのでお知らせいたします。

12月15日付で、各々のクミカンまたは普通貯金に修正経理いたしました。

品名	免税軽油	農業用灯油
対象期間	4月1日～11月30日	7月1日～11月30日
値引修正(1ℓ当り)	4円	4円

お問い合わせ 長沼燃料センター TEL 88-2015



『営農計画樹立』は家族ぐるみで!

本年も営農計画を樹立する時期となりました。この時期にじっくりと営農に取り組む基本方針を立てることが最も重要であり、また、各作物の生産性向上や気象条件などによる危険分散することも考慮し、作物品目などを計画する必要があります。

今年度の営農計画書作成にあたっては前年度の実績を踏まえ、肥料・農薬等の生産資材の効率的利用、コスト低減と経費の節約に努め家族ぐるみで実行可能な計画を樹立し経営の安定に努めていただきたいと思います。

なお、営農計画書の提出期日は2月9日までとなっておりますので、期日を厳守し提出くださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ 本所管理部経営相談課 TEL88-2229 北長沼支所 TEL89-2031 舞鶴事業所 TEL84-2002

融雪剤散布による融雪促進



融雪は気温との関係が高く、3月上旬から融雪が急激に進みます。降雨等によっても融雪が進みますが、大部分は雪面への日射(太陽熱の吸収)と空気からの熱伝導によるものです。

融雪剤散布による雪面黒化は、高い融雪促進が期待できます。

融雪剤の散布適期は、3月1日以降早い時期が効果的。

1 融雪促進の効果

積雪量が多い年ほど融雪促進の効果が大きくなるので、3月に入ったら直ちに融雪剤の散布を行ってください。

融雪剤による融雪促進効果は、散布時期や散布後の気象条件で異なりますが、通常では7～10日程度、条件が良い場合は10～15日程度促進します。

融雪剤散布による融雪促進効果の調査

区分	融雪剤散布日	融雪日	無散布区との差
融雪剤散布区	3月1日	3月25日	10日促進
無散布区	—	4月4日	

JANAながめま調査

2 融雪剤散布量と散布方法

融雪剤の散布量の目安は下記の表を参考にして、積雪状態(雪質)や天候の推移を勘案して散布量を増減してください。

散布方法は、畑一面に均一散布よりも、ややムラまき(散布後に凸凹ができる)の方が効果が高く、かつ雪面上が凸凹の方が融雪は促進されます。

10aあたり融雪剤散布量の目安

区分	資材名	散布量/10a
畑	防散融雪炭カル(粒) クミアイアッシュ・炭太郎	各資材とも40～60kgが目安
水田	珪カル(粒状)	融雪剤として40～60kgが目安

3 早期に融雪剤の注文・確保を行いましょ

お問い合わせ 本所資材センター TEL 88-2307・88-0278

理事会報告 - 第 12 回 -

《平成 29 年 12 月 16 日開催》

[議 案]

- 第 1 号 第 3 四半期自治監査講評
- 第 2 号 平成 30 年度営農計画に係る農産物価格の設定について
- 第 3 号 平成 30 年度営農説明会の開催について
- 第 4 号 総代の改選について
- 第 5 号 事業推進員会議の開催について
- 第 6 号 平成 29 年度決算見込みについて
- 第 7 号 年末賞与の支給について

[報告事項]

1. 会議行事報告事項について
2. 組合員意向調査の実施について
3. JA 北海道大会決議の実践アンケートについて
4. 平成 29 年度(一社)北海道農協経営審査協会の内部審査結果について
5. その他

以上、すべての議案について審議し原案通り承認されました。

今月の組合員数

組 合 員 1,634名
 正 組 合 員 (850名)
 准 組 合 員 (784名)
 正組合員戸数 744戸

農協の動き 11/24~12/16

11月

24日	一日ホクレン	於 農 協
28日	大豆自主検定委員会	於 麦バラ計量棟
28~12月1日	(一社)北海道農協経営審査協会内部審査	於 農 協
30日	粃バラ施設運営協議会	於 農 協
30日	事業推進員会議	於 農 協

12月

4日	空知管内JA組合長会議	於 空知農業会館
4日	空知玉葱共販協議会	於 空知農業会館
5~8日	地区懇談会	於 各地区会館
11日	第6回タンチョウとの共生検討会議	於 役 場
12日	空知地区農協購買事業推進協議会	於 空知農業会館
13日	空知管内JA専務会議	於 空知農業会館
13日	商工会役員・農協役員意見交換会	於 長 沼 町 内
14日	空知管内JA監事協議会役員会	於 空知農業会館
14日	空知種いも協議会	於 空知農業会館
14・15日	JA全国監査機構期中II監査	於 農 協
15日	監事会	於 農 協
15日	栗山地区金融機関防犯連絡協議会	於 栗山警察署
16日	総務・経済対策委員会	於 農 協
16日	理事会	於 農 協

初売り

2018 1月4日(木)

あさ10時から



A-COOP **ながめま店**



最新の営農技術から 農畜産物の市場見通まで

●お申し込みは JA へ

THE JAPANESE NEWS
日本農業新聞
 www.nongyo-shimbun.co.jp

